

中国語と日本語の人称代名詞の使用状況<sup>1)</sup>

— 「茶館」を中心に —

山田 眞一

(平成4年11月2日受理)

## 要 旨

言語研究における対照研究の目指すところは、大きく分けて二つある。一つは言語の類型化であり、もう一つは外国語教育への応用である。また、近年は語用論的アプローチによる分析に基づいた成果が外国語教育に取り入れられはじめて来た。本稿は中国語と日本語の人称代名詞を語用論的アプローチにより分析することを試みたもので、今後の本格的な研究の基礎となる考え方、問題点を発見することに関心が払われている。人称代名詞の使用状況から、日本語が中国語に比べ「客観型」に近いこと、「主観型」・「客観型」という二項対立では類型化が不十分なことを論証するための基礎的な資料を提供できた。

## キーワード

対照研究、人称代名詞、語用論、主観型、客観型

## 1 はじめに

本稿は、中国語と日本語の対照の中から、両言語における人称代名詞使用の語用論的制約を考えるための基礎的作業の一端を報告しようとするものである。

コミュニケーションの場において人称代名詞がどのように使われるかを考えるのに対照という視点を用いるのは、次のような二つの理由による。一つは言語の類型化を考える上で対照という方法は効果的であると考えたからで、もう一つ（そしてこちらの方が急務の課題と考えるが）は、外国語教育への応用を図りたいというねらいからである。外国語学習の目標が単に、「読み」「書き」「話す」「聞く」といった言語的能力の習得のみならず、その言語を使ってその言語が使われている社

会で生活上あるいは仕事上の問題を解決するという伝達能力、さらには、その言語を母語とする話者の行動パターンに合った使い方ができるといふ文化的能力をも身につけることにあるとするならば、外国語教育の場で、ある言語要素が、どういう話の場でどのような使われ方をしどのように表現<sup>2)</sup>されるかが明らかにされなければならない。

人称代名詞を考察の対象に選んだのは、人称代名詞は発話場面の「場面内指示的座標」(deictic co-ordinates)に照らしてその意味が述べられる言語要素の典型的な例のひとつであるといえるので、話の場での使われ方を検討<sup>3)</sup>するのに適した言語要素であると考えたからである。

これまでの研究では、人称代名詞<sup>4)</sup>の統語論上の制約や談話的制約についての考察に重き

が置かれていた。たとえば、

- (1) 人称代名詞は主語・賓語・定語にはなれるが、ふつうは述語・状語にはなれない。
- (2) 副詞の修飾を受けない。
- (3) その前にふつう修飾語をおかない。<sup>5)</sup>  
(この点は名詞と異なる)  
という指摘や、
- (4) 介詞の後ろの名詞句ではゼロ代名詞を使えない。
- (5) 兼語文での「兼語」となる名詞句にはゼロ代名詞が使えない。<sup>6)</sup>  
というのは、統語論的な制約である。

また人称代名詞使用の制約として、「指し示すものがすでに周知 (understood) であるかというだけでなく、文の現れるコンテキストが代名詞で指し示されるものを強調 (high-light) する必要があるかどうかである。」<sup>7)</sup>という指摘は、人称代名詞の談話的制約である。

本稿ではできるだけ、観察しうる実際の発話場面に近い言語素材として、老舎の戯曲「茶館」(三幕)<sup>8)</sup>を考察の対象とし、中国語のテキストとその日本語訳を対照の根拠とした。小論は、中国語と日本語の人称代名詞の使用を制約する条件を考察するための準備研究の一環として位置づけたい。

## 2 人称代名詞の分類と定義

人称代名詞はより一般的には、第一人称(自称:話し手が題目として自分に言及するときに用いる)、第二人称(対称:聞き手に言及するときに用いる)、第三人称(他称:話し手、聞き手以外の人物または物に言及するときに用いる)、不定称(ダレ)に分けられる。さらに、再帰代名詞あるいは反照代名詞(ジブン)<sup>9)</sup>も人称代名詞の一分類とされる。第三人称は以下の点で、第一人称、第二人称と区別されなければならない。すなわち、

- (1) 第一、第二人称が必然的に限定的であるのに対し、第三人称は必ずしも発話場面の<sup>10)</sup>関与者を示すとは限らない。

- (2) 第三人称には「限定的」か「不定」かあるいは「近接」か「遠隔」かといった他の範疇とも結び付く。
- (3) 第一人称、二人称の代名詞は(童話などで動物を擬人化するような場合を除き)必然的に人間を示すが、第三人称は動物、物をも指し示すことができる。

第三人称のこういった特徴は、「指示詞」と「第三人称代名詞」との間に区別のない言語があることからも知ることができる。<sup>11)</sup>なお、人称代名詞は常に「指名語」(designative)であり、人に呼びかけるときに使われる「呼掛語」(vocatives)<sup>12)</sup>とは峻別されねばならず、小論では呼掛語は考察の対象に含まれない。

## 3 中国語と日本語の人称代名詞

### 3.1 中国語の人称代名詞の分類と用法

趙元任(1956)は、中国語人称代名詞の最も一般的な形式を次のように表している。

(表1)

	単 数		複 数	
	普 通	敬 称	排他的	包括的
一人称	我		我 們	咱 們
二人称	你	您	你 們	
第三人称	他	(他) <sup>13)</sup>	他 們	

(表1)に対する補足説明は次のようになる。

- (1) 二人称単数の敬称“您”は、二人称複数形の“你們”が来源との説がある。<sup>14)</sup>
- (2) 三人称の“他”には女性形の“她”(“他”は男性形というより、男女未分化の形である)と人間以外の生物や無生物を指す“它”があるが、音声形式はいずれも“tā”である。
- (3) 一人称複数の排他的“我們”と包括的“咱們”は、日本語ではいずれも「われわれ」になるが、“我們”は「彼、彼女あるいは彼ら+わたし」のことで、“咱們”は

「あなたと彼、彼女あるいは彼ら+わたし」を指す人称代名詞である。

例：你們是女人、我們是男人、咱們都是人。(あなたたちは女性で、僕たちは男だけど、[わたしたちは] みんな人間なのです。)

この区別は、北京、厦門、無錫、常州(江蘇省)およびその他の若干の方言において見いだされるに過ぎない<sup>15)</sup>という。

(表1) はいわばそれぞれの人称代名詞の指し示す対象の基本的な分類であり、人称代名詞の用法はこれだけに限らない。その統語的、談話的制約には、1で挙げたもののほかに、つぎのようなものが考えられている<sup>16)</sup>。

(1) 話しことばにおいては、ものを指し示す三人称の“它”は、賓語の位置に来ることが多く、修飾語となることは少ない。主語の位置に来ることはもっと少ない。またどの文法的な位置にも限らず、“它們”で無生物をさすことは少ない。

例：那些橘子都爛了、把它扔了。

(あのみかんはみんな腐ってしまったから捨ててしまいなさい)

(2) “它”あるいは“他”は、ダミーオブジェクトとして使われる。

例：玩它(他)一個禮拜。(一週間たっぶりあそぶ)

(3) 主語と一致する領属代名詞は対比の場合をのぞきふつうは省略される。

例：

(a) 他戴上(∅)帽子走了。(彼は[彼の]帽子をかぶって出かけた。)

(b) 我碰了(∅)頭了。(私は[私の]頭をぶつけた)

(4) “你”には非人称(ひろく「ある人」を指す)の用法がある。

例：這種問題啊、你得想好久纔想得出辦法来呐。(この問題はね、「人が」よくよく考えないと解決の方法がわからないよ)

この用法の“你”は“您”に置き換えられない。

やや古い資料にもとづくが、人称代名詞と敬意表現といった社会語用論的<sup>17)</sup>な制約には、つぎのようなものが考えられる。

(1) 一般に自分より世代が上の親族を指して言う場合には、“他(她)”は使用しない。

(2) 聞き手が上世代者の場合で、その当人に言及するとき、“你”や“您”だけで指し示すのではなく、話し手との社会的関係を示す語をあとにつける<sup>18)</sup>。

(3) 一人称“我”をできるだけ少なく使い、特に主語の位置におくことを避けることで、謙虚な気持ちを表す。たとえば、話し手が「ある出来事に対して、疑いの気持ちを持っている」と言うことを表明するのに、次のふた通りの表現の内“我”が使役動詞“使”の賓語となる(b)の方が、より穏やかな表現になる。

(a) 我對這件事有点兒懷疑。

(b) 這件事使我有點兒懷疑。

また、だれかに人(や物)を紹介する時にも、“我”が主語の位置に立つ(c)よりも、使役動詞“讓”の賓語として“我”が使われている(d)の方が控え目な表現になる。

(c) 我来介紹一下。

(d) 讓我来介紹一下。

(4) 本来“我”で表せるところを“我們”を使うことで話し手の謙遜した気持ちを表すことができる。たとえば、先生が生徒に向かって「今日は品詞の問題について話します。」と言うときに

今天我們講詞類的問題。

という場合がそうである。“我”を使わずに“我們”とすることで、話し手の意志が中和される。

(5) 二人称の敬称“您”が、下位者に対して用いられ話者の謙遜した態度、遠慮した気持ちを表すことがある。これは多く北京に

において、社会的地位が同等の人同士、しかも<sup>19)</sup>肉体労働者の間に多くみられるという。

- (6) 一人称複数（排他的）代名詞“我們”には、発音の上で男女差が認められ、“我們”を [mm] のように<sup>20)</sup>発音するのはおもに女性であるという。

### 3.2 日本語の人称代名詞の分類と用法

渡辺正数（1983）の分類にもとづく<sup>21)</sup>と日本語の人称代名詞は次のように示される。

（表2）

一人称	わたくし、わたし、ぼく	
二人称	あなた、きみ	
三人称	近称	このかた（こいつ）
	中称	そのかた（そいつ）
	遠称	あのかた、かれ（あいつ）

一人称は自称（話し手自身を指す）、二人称は対称（話し手からみて聞き手を指す）、三人称は他称（話し手からみて、話し手聞き手以外を指す）ともいわれる。日本語の人称代名詞の用法で特徴的だと考えられているものの内、小論の考察の範囲におけるものには次の二つが挙げられる。

第一に、一人称代名詞、二人称代名詞がたくさんあるということで、（表2）に挙げたもの以外にも一人称代名詞には、「おれ、おいら、わし、あたい、うち、小生、自分…」、二人称代名詞には「おまえ、あんた、きさま、おたく…」、などがある。どの人称代名詞を使うかは、話し手と聞き手との上下関係（上位者か下位者かあるいは同位者か）や話の場が改まったものであるかどうか、あるいは話し手がどの程度の丁寧さを選ぶかといったことによって規制される。たとえば、日本語で一人称代名詞が使われることが少ないのは、聞き手の視点に立った名称で自分のことを表現するからだといわれている。聞き手が自分

の子供の場合には、自分のことを「おとうさん」「おかあさん」と称し、同じ人が学校という場では生徒に向かって自分のことを「先生<sup>22)</sup>」と言う。こういった使われ方は上位者から下位者にはできるが、下位者から上位者へはできない。

二人称代名詞は、聞き手が上位者である場合には使うことは避けられ<sup>23)</sup>、その代わりにたとえば職業的地位を表す名称（「課長」「先生」など）が使われ、社会関係から聞き手を称する。また、家庭内では下位者は上位者に対して親族名を使う。

このように、日本語の一人称、二人称代名詞の使用には社会語用論的制約が強く働くことになる。

第二に、日本語の三人称代名詞は指示代名詞の「こ、そ、あ」系で表されることである。「かれ」「かのじょ」を話し言葉での三人称代名詞とすることには抵抗があるという指摘もあるが、小論では「かれ」「かのじょ」も三人称代名詞<sup>24)</sup>に含めて考える。

## 4 中国語と日本語の人称代名詞の使用状況

1で述べたように、小論が検討の材料とするのは、老舎の戯曲「茶館」の対話部分に現れる人称代名詞と、その日本語訳の人称代名詞である。なお、3で見たように日本語の人称代名詞—特に二人称代名詞—の使用には社会語用論的制約が強く働き、人称代名詞の代わりに身分名や親族名称で表現されることが多いと予想されるが、こういったものも人称に準ずるものと考え、表中では「準人称」と表した。

### 4.1 対照の結果

調査の結果、中国語と日本語の人称代名詞の「現れ」（occurrences）の状況は以下のよう<sup>25)</sup>にまとめられる。

(表3)

	中国語	日 本 語	
		人 称	準人称
我 ワタシ	5 4 9	2 4 7	6
你 ／ 您 アナタ	3 5 0 ／ 1 6 2	1 8 2	3 8
他 ／ 她 カレ ／ 它	8 2 ／ 9 ／ 3	4 6	3
我們 ／ 咱們 ワレワレ	4 6 ／ 5 7	6 3	2
你們 アナタチ	2 5	1 3	1
他們 ／ 她們 カレラ ／ 它們	4 0	3 0	1

中国語の人称代名詞の総出現数は1323で、それに対する日本語の訳文中の人称代名詞の総出現数は581(準人称を含めると632)である。

中国語と日本語のそれぞれの人称代名詞が総出現数中に占める比率は以下のとおりである。

(表4)

	中国語	日 本 語	
		人 称	準人称
我 ワタシ	41.5%	42.5%	40.0%
你 ／ 您 アナタ	38.7%	31.3%	34.8%
他 ／ 她 カレ ／ 它	7.1%	7.9%	7.8%
我們 ／ 咱們 ワレワレ	7.8%	10.8%	10.3%
你們 アナタチ	1.9%	2.2%	2.2%
他們 ／ 她們 カレラ ／ 它們	3.0%	5.2%	4.9%

(表3)と(表4)から、中国語と日本語の人称代名詞の体系上の対照結果は次のように要約できる。

- (1) 中国語の人称代名詞の出現数は、日本語の人称代名詞の「現れ」の二倍以上である。
- (2) 人称代名詞の出現数の多い順に並べると、中国語も日本語も一人称>二人称>三人称という順になる。
- (3) 一人称単数の使用比率は、日本語と中国語でほとんど差はないが、複数の使用比率は日本語の方が中国語よりも大きい。
- (4) それぞれの言語における単数と複数を含めた一人称の使用率には有意差はないが、一人称と二人称の使用比率の差は、中国語が8.7%であるのに対して、日本語は19.8%である。これは有意差といえる。

## 4.2 対照上問題となる用例

3から明らかのように、統計のうえからは、中国語から日本語に訳される時、半分以上の人称代名詞が減ったことになる。もちろん、日本語にとってはそれらの人称代名詞は省略されたのではなく、不必要であるから人称代名詞が使われないのである。ここに挙げる用例は、そうした例とは違った、中国語と日本語の対照上問題となるものである。

### 4.2.1 追加の例

中国語では人称代名詞が使われていないにもかかわらず、日本語訳では人称代名詞が使われているもの。

- (1) 中：那不是因爲鄉下種地的都没法子混了  
嗎？<sup>25)</sup>

日：それは、おらたちの在の百姓仕事じゃもうどうにもあがきがつかねえからじゃありませんか？

- (2) 中：英法聯軍燒了圓明園，尊家喫着官餉，可沒見您去衝鋒打仗！

日：英仏連合軍が円明園を焼き払ったが貴殿はおかみの禄をはんでおられる

のにそいつらと一戦まじえるのを  
いぞ見かけませんでしたな。

(3) 中：二爺，府上都好？

日：旦那さま、お邸ではみなさまお達者  
で。

(4) 中：剛纔你要瞪眼睛，你當我怕你嗎？

日：さっきおまえさんはわたしを睨みつ  
けようとしたけれど、わたしがあんな  
たをこわがると思ったのかね？

(5) 中：可是，眼看着老朋友們一個個的不是  
餓死，就是叫人家殺了，…

日：だが、わたしは昔からの友人が一人  
また一人飢死にするか、でなければ  
あいつらに殺されるのを目の当たり  
にみた。

こういった例は（表3）および（表4）中  
には現れない。

#### 4.2.2 人称転換の例

(1) 中：（不語，直奔過劉麻子去）劉麻子，  
你還認識我嗎？（要打，但是伸不出  
手去，一勁地顫抖）你，你，你個…  
…（要罵，也感到困難）

日：（無言、あばたの劉めがけてとびか  
かる）あばた、わたしが分かるかね？  
（ひっぱたこうとするができず、わ  
なわなと身をふるわせ）こ、こ、こ  
の……（悪態をつこうとするが、そ  
れもえない）

(2) 中：你，你看看我是誰？

日：わたしが、わたしが誰だかよく見て  
ごらんよ。

(3) 中：小劉麻子！來，叫爺爺看看！（看前  
看後）你小子行，洋服穿的象那麼一  
回事，……

日：劉公！おいで、おじいちゃんに見せ  
てごらん！（しげしげと眺めまわし）  
こいつ、いけるぞ、背広の着こなし  
なんかきまっている。

#### 4.2.3 数転換の例

中国語の人称代名詞が複数であるのに日本語訳では単数で表されている。

(1) 中：我把它們交給你，沒事的時候，你可以  
跟喝茶的人們當個笑話談談，……

日：これをおまえに渡しておくから、手  
がすいているとき、茶飲み客相手に  
笑い話に話してやればいい、……

（注：ここでの“它們”は万年筆と二三個  
の機械の小さな部品を指している）

#### 4.2.4 文成分転換の例

中国語でも日本語でも人称代名詞が使われて  
いるが、それらが担う文の成分が異なる。

(1) 中：宋恩子 等等！

老陳 怎麼啦？

吳祥子 （也立起）你說怎麼啦？

日：宋恩子 待て！

陳 どうしてや？

吳祥子 （こっちも立ちあがり）

どうしてかおまえに聞いた  
いね！

人称代名詞が中国語では主語の位置だが、  
日本語訳では「二格」で表されている。

#### 4.2.5 “它”が主語になれる例

中国語の三人称代名詞のうち“它”は主語  
の位置に来ることがほとんどないといわれる  
が、“它”が主語になる例が「茶館」には一  
例見つかった。

中：這枝筆刻着我的名字呢，它知道，我用  
它簽過多少張支票，寫過多少計劃書。

日：この万年筆にわしの名前を彫ってある  
だろう、こいつが知っているよ、わし  
はこいつでどれだけの小切手を切り、  
どれだけの計画書を書いたことか。

この万年筆は、話し手である秦仲義愛用の  
もので、いつも自分と共にあり自分の生きざ  
まを見てきた万年筆だと秦仲義は思っている。  
ここでの“它”は擬人化された用法といえる。

#### 4.2.6 “他”の訳例

日本語の三人称代名詞に「かれ」「かのじょ」を認めることに抵抗を感じるという指摘があることはすでにみたが、小論の調査では“他”を「かれ」と訳している例が二つ検出された。

(1) 中：他説實業救國，他救了誰？

日：あの人は実業救國を唱えているが、彼が救ったのは誰だ。

ここでの“他”は秦仲義を指している。ここで「彼」が使われたのは、その直前に「あの人」という訳語がありそれとの重複を嫌ったこととも関係があるろうが、「彼が救ったのは誰だ」という表現は反語文であり、“他”を「彼」と訳すことで、話し手の、秦仲義に対する非難の気持ちが表明されることになる。

(2) 中：小劉麻子叫我來的，他說這兒的老掌櫃託他請個女招待。

日：あばたの劉公に言われて来たの、彼ここのおじいさんに女給さん頼まれたって言ってたよ。

この発話は、話し手は十七歳の女給小丁宝で聞き手は茶館の若い店主という場面でなされている。「彼」は女衞の小劉をさしている。ここでは、「彼」を使うことで、小丁宝と小劉の関係を暗示するという効果があるといえる。

以上からわかることは、日本語の三人称代名詞の「かれ」「かのじょ」は、話しことばとしては、確かに自由には使えそうにないということである。

#### 4.2.7 品詞転換の例

中国語では一般名詞であるものが、日本語訳では人称代名詞が使われている例。

(1) 中：鄉婦 走吧，乖！

小妞 不賣妞妞啦？ 媽！

日 百姓女 行こうね、おりこうさん！

小妞 あたいをもううらないのね、おっかあ！

これは、話し手が娘で聞き手はその母親という場面である。“妞妞”は「幼い娘」という意味の方言である。日本語では家庭内の上位者が下位者に対して、人称代名詞ではなく下位者から見た親族名称で自分のことを称することはごく普通で、たとえば、父親が子供に向かって「お父さんはいま忙しいからあとで遊んであげるね。」とは言えるが、子供が父親に「娘は今遊んでほしいの。」とは言えない。

上位者が下位者へ自分のことを言うときに下位者から見た名称を使うことで、共感同一化の働きが生まれるといわれるが、こういう使われ方は中国語にもある。

(2) 中：王小花 他要是回來打您呢？

王利發 我？ 爺爺會說好話呀。

日：王小花 帰ってきておじいちゃんをぶったら？

王利發 わしか？ おじいちゃんは詫び上手だからな。

(注：王小花は王利發の孫娘)

(3) 中：于厚齋 小花！老師們也不願意耽誤了你們的功課。

日：于厚齋 小花！先生たちもきみたちの勉強をおくらせたくはないんだよ。

(注：于厚齋は小花の先生)

(4) 中：康順子 媽媽把你養大了的，你跟媽媽一條心，對不對？乖！

日：康順子 かあさんが大きくしてやったから、ぼうやは、かあさんとひとつところだ、そうだね、ぼうや！

(注：聞き手は康順子の養子の康大力)

どこまで一般化できるかは、今後の調査に待たねばならないが、(1)は下位者からの上位者への共感同一化の例といえよう。

## 5 語用パラメータによる解釈

3での対照結果を解釈するのに、ここでは、Levinson (1983) の語用パラメータを使って解釈<sup>25)</sup>してみる。

Levinson は、人称指示 (person deixis) にもとづき、話し手を S (Speaker)、聞き手を H (Hearer)、その場にいる話し手および聞き手以外の人を B (Bystander) に分けている。これによると第一人称は (+S)、第二人称は (+H)、第三人称は (-S, -H) と表すことができる。そしてこれらのパラメータを使うと、人称代名詞の使用を「主観型」と「客観型」に分けることができる<sup>26)</sup>。

(±S) と (±H) を語用パラメータとし、[-S ∧ -H] (SでもなくかつHでもない) すなわち、第三人称の使用比率が高いものを客観型とし、[+S ∨ +H] (SでなければH) すなわち第一人称と第二人称の使用比率が高いものを主観型とする。4で得た結果をこの枠組みに照らし合わせると4.1(2)により、中国語も日本語も主観型になる。

また、第一人称の単数複数を語用パラメータとすると、第一人称単数の使用比率が低く複数の使用比率が高いものは客観型となり、第一人称単数の使用比率が高く複数の使用比率が低いものは主観型となる。4.1(3)により、日本語は客観型で中国語は主観型になる。

趙世開 (1991) は英語と中国語の人称代名詞の対照を行ったものであるが、どちらの語

用パラメータによっても、英語は客観型に、中国語は主観型になるという結果が導かれている。

限られた言語資料の中でのわずかな調査のみにもとづいて、結論を出すことは差し控えられなければならないが、趙論文と本稿の考察から得た結果から、人称代名詞の使用からみた「主観度」は強い順に、中国語>日本語>英語となるだろうという予測が可能である。また、日本語も含めた対照では、主観、客観という二項対立の類型化だけでは不十分であるということがこれまでの検討から導き出される。

## 6 まとめ

劉徳有氏は、日本語の人称代名詞の中国語への翻訳の難しさを夏目漱石の小説「我輩は猫である」の題名の中国語訳をめぐって指摘したが、それは中国語から日本語への翻訳に際してもいえることで、4で見たように中国語で人称代名詞が使われていないにもかかわらず、日本語訳では人称代名詞が必要な場合がある。今後は、こうした中国語と日本語の対訳における人称代名詞の追加現象などについても引続き観察を行い、人称代名詞使用の制約と語用パラメータについての考察を続けていきたい。

[付記] 印刷上の制約から、中国語の字体に簡体字が使えず繁体字で表記した。



## 引用文献・脚注

- 1) 本稿は中国社会科学院語言研究所研究員の趙世開氏の研究（「漢英人称代名詞対比研究 —— 初步的語用分析」1991, 未公刊）に啓発されたものであるが、本稿の責任は筆者にある。
- 2) 言語的能力、伝達的能力、文化的能力の定義は、窪田富男東京外国語大学教授が1991年10月24日に北京日本学研究中心での公開講座「日本人の対人意識と言語行動」で述べられたことを参考にした。
- 3) J・ライオンズ著、國廣哲彌訳：理論言語学、大修館書店、1973, p.303.
- 4) 中国語学では一般に「人称代詞」という用語が使われるが、本稿では、日本語との対照という点を考慮し「人称代名詞」という用語で統一する。
- 5) 輿水優：中国語の語法の話—中国語文法概論—、光生館、1985, p.218.  
なお、「賓語」「定語」「状語」は中国語学で習慣的に使われている用語で、より一般的には「目的語」「連体修飾語」「連用修飾語」と称されるものと大差ない。
- 6) より詳細な議論は、Charles N. Li and Sandra A.Thompson : *Mandarin Chinese*, University of California Press ,1981,p.675.
- 7) Charles N.Li and Sandra A.Thompson (1981, pp.654-674)
- 8) テキストは、「老舍劇作全集第二巻」(中国戯劇出版社、1982)所収のものを用いた。日本語訳のテキストは、「老舍珠玉」(黎波訳、大修館書店、1982)を用いた。
- 9) カタカナで「ダレ」「ジブン」と表すことで、日本語の「誰」「自分」だけを指すのではないことを示す。本稿での考察の範囲には不定称と再帰代名詞（あるいは反照代名詞）は、含めない。以下、三人称についての記述はJ. ライオンズ (1973) によるところが大きい。
- 10) もちろんこのことは、受信者が必ず物理的に発話場所に存在していなければならないということではないことは、手紙や電話などの場合を考えてみれば明らかである。この点をジョージア M. グリーンは、  
「必要なのは、発話受信時に誰か適当な受信者が存在するという話者の意図や見込みがあるというだけである。」（「プラグマティックスとは何か」深田 淳訳、産業図書、1990, p.22）と述べている。
- 11) J. ライオンズ (1973, pp.306-307) によると、トルコ語、古典ラテン語、ギリシア語がそうであるし、ロマンス諸語の第三人称代名詞は指示代名詞から発達したものであり、同様のことは英語やドイツ語の第三人称代名詞についてもいえるという。共時的には中国語、日本語についても同様のことがいえる。
- 12) Yuen Ren Chao (趙元任) : “Chinese terms of Address”., *Language*. 32 : 1, 217-41 (1956).  
のちに *Aspects of Chinese Sociolinguistics*, Stanford University Press, Stanford, California, 1976. に収められた。邦訳に「中国語における呼称語」(十河悌次、1959)がある。「指名語」「呼掛語」という訳語は邦訳によった。
- 13) 陳松岑（「礼貌語言初探」, 商務印書館、1989）によると、“他”の敬称“您”は、現在では年令の高い北京の人の中で使われるだけで、指し示される人が、聞き手の尊敬する人あるいは上位者であると話し手が判断した時に使われるという。最も典型的な例は、子供たちが父母に祖父母のことを話すときに“您”が用いられる場合だという。また、趙元任 (1956) は、召使同士が自分たちの主人について話している場合くらいにしか、人が“您”と言うのを実際に聞いたことがないという。
- 14) たとえば、Yuen Ren Chao (1956)。しかし、別の説もあり、呂叔湘、江藍生らは、“您”は、

- “您老”の短縮形と考えている。(「近代漢語指代詞」学林出版社、1985, pp. 36-38)。また、陳松岑は「礼貌語言初探」(商務印書館、1989, p. 54)で、方言を傍証に呂叔湘、江藍生の説を支持している。
- 15) Yuen Ren Chao (1956)。「漢語方言詞匯」(北京大学中国語言文学系語言学教研室編、1964, p. 405)には、他に潮州、福州にも一人称代名詞の複수에排他形式と包括形式があることが報告されている。
- 16) おもに Yuen Ren Chao (趙元任), *A GRAMMAR OF SPOKEN CHINESE*, University of California Press, 1968. およびその中国語訳「漢語口語語法」(呂叔湘訳、商務印書館、1979)による。
- 17) おもに Yuen Ren Chao (1956)による。
- 18) よって自分の叔母への発話で「わたしは、叔母様(父の姉妹)と出かけたと思います。」は、次のうちのいずれかを使って表現される。(Yuen Ren Chao, 1956)
- (a) 我要跟姑姑走。
  - (b) 我要跟你走, 姑姑。
  - (c) 我要跟您走, 姑姑。
- 19) 陳松岑 (1989, p. 59)。なお、同書はその原因を旧社会では肉体労働者が蔑視されていて、日常生活の多くの場面で、控え目で礼儀正しく、謙遜した態度、言葉が求められたことから、頻繁に“您”を使う習慣ができ、それが現在の言語生活の中にも残っているものと考えている。
- 20) Yuen Ren Chao (1956)による。
- 21) 渡辺正数: 教師のための口語文法、右文書院、1983, pp. 91-93. 但し、不定称(どなた、どいつ)は省略した。
- 22) 鈴木孝夫は「閉ざされた言語・日本語の世界」(新潮社、1975)の中でこのような自己把握を「相対的自己表現」と呼び、自己を言語的に表現するのに、用語として一人称代名詞のみが用いられる「絶対的自己表現」と区別し、そこに自我構造の違いを見ている。
- 23) もし、下位者が上位者に対し二人称代名詞を使えば、上位者と下位者の関係を壊したい、あるいは逆転したいという意志表示になる。但し、妻が夫に対して用いる「あなた」にはそういった働きはない。
- 24) 渡辺正数 (1983)。さらに、「日本語教育事典」(日本語教育学会編、大修館書店1982, p. 113)によれば、「かれ」「かのじょ」は自由に用いられるものではなく、話の場への初出の際に親族名称、身分名などで表現した人物に対して「かれ」「かのじょ」とは言わないという。なお、同事典(p. 114)での説明のように指示代名詞と三人称代名詞を「指示語」とし人称とは切り放して考えることは日本語を考察の対象とした場合理論的整合性があるが、小論は人称代名詞に対照という視点から検討を加えるもので、ひとまず三人称代名詞という用語を使うことにする。
- 25) Stephen C. Levinson. : *Pragmatics*, Cambridge University Press, 1983, pp. 68-79.
- 26) 脚注 1) で述べたように、この考えは趙世開氏の研究にもとづく。
- 27) 1991年6月に北京で行われた「中日日本学青年シンポジウム」の記念講演の中で、劉徳有氏は「我輩は猫である」の中国語訳を従来の“我是猫”ではなく、“咱家是猫”とすることを提唱している。

# **A Contrastive Analysis of Pronominal Usage Difference between Chinese and Japanese, with Special Reference to “The Tea House”**

Shinichi YAMADA

(Received November 2,1992)

## **ABSTRACT**

The contrastive study of language has two general aims: to contribute to the typological study of language, and to apply the results to foreign language teaching. Also helpful to language teaching is pragmatic analysis of language, which is currently attracting wider attention.

This paper analyzes the usage of Chinese and Japanese pronominals according to the pragmatic approach, concluding that Japanese is more of an “objective type” language than Chinese. Some rudimentary data are also presented to demonstrate that there are various types of language which fall between “objective” and “subjective”.

## **KEY WORDS**

Contrastive study, Pronominals, Pragmatics, subjective Type, objective Type